



議員研修報告書

令和 2年 2月 18日

土佐清水市議会議長
永野 裕夫 様

岡本 詠



下記のとおり報告します。

項 目	<input type="checkbox"/> 現地調査 <input type="checkbox"/> 行政視察 <input type="checkbox"/> 要請・陳情活動 <input checked="" type="checkbox"/> 研修会への参加 <input type="checkbox"/> 会議への参加
参 加 者	前田 晃 岡本 詠
期 日	令和 元年 10月 30日・31日
場 所	高知ちばさんセンター 高知市布師田 3992-2
概 要	<p>第14回 全国市議会議長会研究フォーラム in 高知 －議会活性化のための船中八策－</p> <p>○基調講演 現代政治のマトリクス ーリベラル保守という可能性 講師 中島岳志 東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授</p> <p>○パネルディスカッション コーディネーター 坪井ゆづる 朝日新聞論説委員 パネリスト 高部正男 市町村職員中央研修所学長 横田響子 株式会社コラボ代表取締役 古川康造 高松丸亀町商店街振興組合理事長 田鍋 剛 高知市議会議長</p> <p>○課題討議 コーディネーター 坪井ゆづる 朝日新聞論説委員 事例報告者 滝沢一成 上越市議会議員 久阪くにえ 鎌倉市議会議長 小林雄二 周南市議会議長</p>

【所 感】

基調講演では、リベラル保守という可能性についてお話をいただいた。

保守本流とは何か。

現代の保守政党といわれる政党が行っている政治は本当に保守と言えるのか？私が度々考えていたことが聞けた。

アメリカを例に民主党（リスクの社会化・大きな政府）や共和党（リスクの個人化・小さな政府）

日本の現状は、後者のリスクの個人化・小さな政府になりつつある等、現在日本の政治がどのような方向を向いているのか参考になった。

パネルディスカッションと議題討議は、議会活性化や議会改革について行われた。

たとえば、

☆行政監視機能をどうやって高め、成果をあげていくか。

☆人口減少、外国人の増加、災害対策等々、地域の将来を見すえた政策論議をすすめるために必要な視点とは、何か。

☆候補者男女均等法のもとで、「老々男男」の実態をどう変えられるのか。

☆規模の小さい議会で深刻化する「なり手不足問題」にどう対処するか。

☆住民の関心を高めるには、何をすべきか。

こうした諸問題についての報告や討議がされた。

全国それぞれの議会の置かれた状況によって、考え方や方策の違いがあるので、参考になる部分とまらない部分は当然出てくるが、ひとつ言えるのは、前に進んでいる議会というのは、当たり前のように住民が市政や議会に興味を持ち、住民自らが声を上げ参加しているということ。

周南市議会は、合併に伴い議員報酬を金額が一番高い市の水準に一本化する議案を可決したことに対し、市民グループが署名活動や手続きを経て議会解散請求を提出し、それに伴う住民投票により賛成多数で即日解散された。

理に適っていない政策がまかり通ってしまう議会に対して住民が声を上げて行動をおこしたということだろう。そのような議会は住民の力で解散させ、改めて議員を選びなおす。

これは本当に素晴らしい事案だと思った。

住民の権利として、ちゃんとこういったことができる、そのことを知らない人は多いと思う。市政をチェックするのは議会。その議会をチェックするのは住民。人任せにせず、しっかりと見て行くことが豊かな未来へと繋がると思う。

土佐清水市の皆さんも、「こんな議会はいかんやろ」と思ったら、是非とも行動に移していただきたい。

フォーラムの最後に、参加者からの質問を取り上げた話があった。

その中で、面白い質問があった。

市長と距離を置いている会派なので、新しい政策などの情報が入ってこない。所謂、市長与党と言われる最大会派との間で話を詰めて、決まった後に提案されるので、そのまま議会で可決されてしまう。

資料の中の坪井さんの言葉に、「一部の議員から『議案は事前の協議で修正させているのだから、修正する必要などない。ましてや否決などする理由がない。』という話を聞く機会がある」とあるが、それは一部の事前の協議をした議員の話で、全ての議員に対しちゃんと説明して議論していかなければならないものを、所謂市長与党と野党などと区別すべきではない。この実情に対してどうしたらいいか良いアドバイスはないか。といった質問が、匿名の方からあった。

他にもまだこんな議会があるんや！？と思っていたら、これを聞いた後ろの議員から「そんな議会あるかい！」と聞こえてきた。

私は、「もっとひどい議会があるんやけど」と言ってとなりの議員と笑ってしまった。

この質問を聞いた、土佐清水市議会から参加した他の議員の中には、この質問を出したのは私だと思った議員もいたのではないかと思う。

土佐清水市議会の場合は、議会として到底理解できないことが常態化しているので、私が書いていたとしたら、もっとひどい内容となっていたであろう。

しかし、土佐清水市議会の実態を書き、この現状を変えていくにはどうしたらいいかと質問して、話を聞いた議員の皆さんがどのような反応をするのか、それはそれで見てみたかったと思う。

この質問に対して、上越市議会の滝沢氏よりこのような回答があった。

一言でいえば、「議会の力」上越市議会には、市長与党だとか野党だとかはない。議会の本来の目的は市長の暴走を食い止めて市長の怠慢を防ぐというのが我々の最大の目的。

今の時代、市長与党だとかいうのは、あり得ない。

そのためにどうするかといえば、一人の議員が異議を唱えたら、委員会などでみんなで議員間討議をして、一つの方向性を示して、一人の議員から始まったものでも、議会全体で協議をして議会としての意見を市に示すべきだとなって来たときに、市長よりも大きな力を持つことになる。

そういった形をとっていけばいいが。

その通りである。

それが議会本来の姿であり、至って普通のことなのだが、土佐清水市議会に関してはその逆をいってしまっている。

このような問題が土佐清水市議会には山積していると、今回の研修により改めて感じた。

あと、議員のなり手不足（人材不足）が問題になっている話もあったが、土佐清水市の市議会議員選挙においては、以前、無投票があったものの、前回、前々回は定数より立候補者が多い選挙となっている。

このことで、「うちは議員のなり手不足の問題はない」と思っている人も少なからずいるのではないか。

この「議員のなり手不足」ただ、議員になる人がいないという問題、ではないと気付いている人がどれだけいるだろうか。

これは、議員になる人がいれば、誰でもいいというわけではない。

二元代表制を基に議員の役割をちゃんと理解し、市民の代表として地方自治法や会議規則に則って判断し議論していく「市政に対しものを申せる人」こういった人材が不足していることを、『議員のなり手不足、人材不足』と言うと私は思う。

だから、仮に議員に立候補する人が多くいたとしても、まとも（普通）な議会運営ができない者が大半を占めるとなると、それは、『議員のなり手不足、人材不足』なのである。

我が土佐清水市は、すでに『議員のなり手不足、人材不足』になっている、ということに気付かなければならない。

終わりに、資料に掲載されている坪井氏の言葉を抜粋する。

「自治の主役」にふさわしく

議会は地方政治、自治の主役である。

予算や事業の賛否などの最終決定権を握っているのは議会であり、地域の将来を左右する重大な使命を担っている。

当然、その責任は重い。すべての決議にあたって、公明正大で説明可能な判断を求められている。

「いまだに『自治の主役』の自覚に欠ける議員が存在している議員が存在している」という「議会不信」が根強くあるのは否定しがたい事実ではないか。

全国津々浦々で、選挙のたびに過去最低の投票率が相次いでいるのも、議会に向けられた冷ややかな視線の現われに見える。

ならばこそ、こうした世論を踏まえつつ、質の高い議会を実現してゆくための具体策とは・・・

さて、土佐清水市議会は？